

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

1月下旬、東京「銀座プロッサム」中央会館で開催された第37回アイ・メディア情報バザール。加藤和郎さんの司会で「物知り

顔の大人たちと知りたがりの若者」が集う座談大会にゲストで招待されて参加する。会は、情報社会を迎えるための異業種交流会でマルチメディアの在り方を学ぶ目的から発足、現在は参加者一人ひとりが情報源となつて話し合い、創造の森に行きたいと開催している会だ。

加藤さんと初めて出会ったのは、1991年第6回冒険とスポーツの国際映画・映像祭白馬大会(JIFAS)で、大会をNHK衛星放送で長時間にわたって放映するためにプロデューサーとして白馬

を訪れ、文化イベントにも積極的に協力いただいた時からの人だ。加藤さんは、NHK長野局在籍中には「浅間山荘事件」を取材、10日間のニュース映像と強攻救出を生中継で構成した「軽井沢

の連合赤軍」でカンヌ国際ルポルターシユコンクール審査員特別賞を受賞、また長野県の芸術文化を全国に発信した長野県に縁のある方だ。

地域に必要な情報を得るためには、多様な考えを持つ人たちとの交流が必要だ

ワイド・「ゆく年くる年」などの総合演出、「ワールドスポーツ番組」の開発、各種イベントの企画・演出を手掛け、昨年まで名古屋学芸大学造形メディア学部教授を勤め、現在はミス日本協会理事・

日本の寺子屋・副理事長など多彩な能力を発揮し続けている人材だが、実に穏やかでやさしい雰囲気が好きで交流を続けさせていた

密眼細かく子細に見る)・漠眼(距離を置いて全体を見る)・童眼(子供のようになく無心で見る)・洞察眼(見えな部分を見て見る)・慈眼(慈悲の心を持って見る)・自在眼(あらゆる角度から見ると)

実践しているからこそ、開催した会には有意義な一時を共有したいと都内はもちろん、仙台・新潟・横浜・熱海など全国から参加しているのだろう。



加藤さんの巧みな話術でビジネスと文化が出会う交流会に変えて行く

信には、多くのメンバーが関心を持ったようだ。現在の白馬の情報ほとんど伝わっていない現実も知った。情報交換の中で、

現在の東北地域の取り組みが、先進的な面を持つている事も知った。参加者は、地域づくりに参画する者、起業を目指す者、元ミス日本で女優業・文化活動に参画する者・地域社会フォーラム理事・白馬村森上)